

172. パイプ工場のあったころ

撮影：昭和33年10月



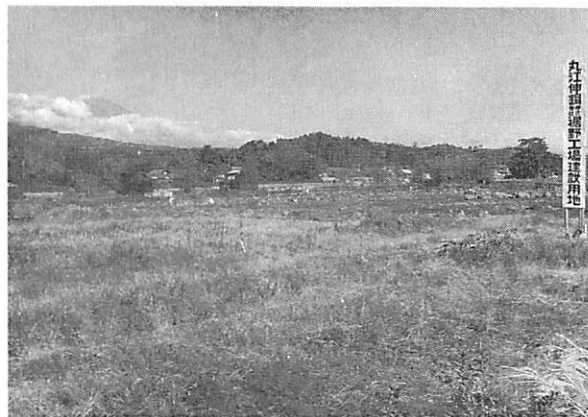
福島軽工業株式会社、この近辺では福島のラオ工場と呼んでいました。アメリカへ輸出する竹ステッキが主として作られ、竹の原材料は福島県白川方面から鉄道の貨物車両で送られてきたようです。

このような竹の加工をする工場はおそらくこの近隣には無かったと思われます。創業がいつのころか分かりませんが、私たちが戦前にあったことを記憶しています。古い記録には明治41年裾野に竹工場（パイスケ、竹コオリ、キセル竹始まる）という記事がありますので、たぶんこの工場の前身だと思われます。

その後巻タバコが多くなったのでタバコ用の竹パイプも盛んに作られました。

173. 工場敷地のその後

撮影：昭和36年11月



伸銅とは「しんちゅう」のことで、銅に亜鉛を加えた合金で、この合金を棒状に押し出したしんちゅう棒のことです。丸江伸銅株式会社は、このしんちゅう棒を製造する会社で本社は京都駅前にあり、当市の富沢地区へ進出したのが昭和33年ごろです。しかしその頃、プラスチックの出現によりしんちゅう製品は衰退の一途をたどり、丸江伸銅は小規模の工場を建設して数年間操業を続けましたが、ついに閉鎖することになったのです。

その後、この敷地は住宅用地として転売されて、住宅地に造成され、現在の南町区になりました。この写真は伸銅建設前の用地です。

174. 富士マサ抜きを始めたころ

撮影：昭和33年12月



富士の裾野の演習場に接続した広大な農耕地には、富士マサといわれる不透水盤があって、その上に黒ボクといわれる作土があります。水を透さないマサの上の黒ボクの厚さは20cm前後で、雨が降るとドロドロになり、限られた作物しかできませんでした。

富岡村と須山村が裾野町に合併した昭和32年に、農業構造改善事業として、県に依頼して農業機械化公社を設立してもらい、大型農業機械を導入して富士マサ抜きを実施することになりました。

この写真は、大型機械の深耕によるマサ破碎の実況を査察する県農林水産部長ほかの皆さん方です。

175. あのころの裾野駅前通り

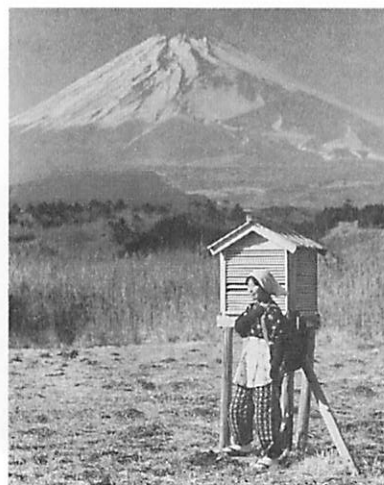
撮影：昭和34年1月



この年の1月30日は静岡県知事選挙が行われました。昭和34年といえばまだ裾野町で、町長は故渡辺義夫さん、助役は故杉山織恵さんでした。まだテレビも白黒の時代です。当時の裾野駅前通りです。商店街も現在とは大分変わっています。写真右側の一番手前が旅館清水館でしょうか。中川電気店や松屋洋品店の看板が見えます。左側手前はラーメン屋の水野屋、洋品店の杉山商事、杉山青物店と続きます。40年近く経つと商店街の様相も変わっていくので、小生も記述しながら当時の面影が薄れているのに気がつき自分が年をとっているのに気がきます。

176. 十里木の思い出

撮影：昭和35年2月



この写真はどこかわかりますか？ちょっとわかりにくいでしょうね。富士山の姿から見て、場所は十里木方面だろうとは思いますが。ここは、十里木にある旅館十里木館の前の小高い丘に設置された百葉箱での一コマです。その後、私もこの地を尋ねたことがないので、今はどのように変わっているかわかりませんが、驚くほど変わっていることでしょう。カラーテレビはこの年に放送が開始されました。須山に水稻の栽培が初めて行われたのもこの年でした。農家の娘さんではないのでしょうか、モンペ姿がとても似合いますね。

177. 十里木の思い出Ⅱ

撮影：昭和35年3月



この写真は2月15日号の広報すそのに掲載した写真のすぐ近くで撮影した写真です。モデルの娘さんも同じ娘さんです。須山村が裾野町に合併したのが昭和32年でしたからまだ日は浅く、殊に十里木方面は私たちにとっては印象が深く、写真撮影にはことかかない、たくさんのモチーフに恵まれているところでした。

十里木という名称は、その名の由来にしる根拠にしるなんとなく伝説を感じさせるような、また詩情を感じさせるような気がします、古老の方々に聞いてもわからず、記録的な文書類もないようです。

178. 旧市民会館のオープン直前

撮影：昭和34年6月



昭和32年富岡村、須山村が裾野町に合併して中駿五か村の大同団結ができ、裾野町発展の礎が整ったのですが、当時は会合場所がなく、庁舎の屋上を利用していました。

町民待望の町民会館が建設されたのが昭和34年夏、裾野町もやっと一人前の自治体になったようなよろこびを感じたものです。以来30余年、市民の文化向上の立役者はその役割を果たして消えました。移り変わる時代の変遷というのでしょうか、感慨もひとしおです。

写真は旧市民会館が完成したオープン直前の姿です。

179. お茶の香り

撮影：昭和28年5月



むかしから、5月となればお茶つみが始まります。しかしこの地方ではお茶の栽培専門農家はありませんでした。畑の境とか周囲に植えて、年間自分の家で必要なお茶を得るだけの栽培でした。雲さえなければこんなに美しい富士山を眺められるところですから、お茶の味もなかなか美味だったのですが、農家も地域で決まった作目があるため、お茶専門農家にはなれなかったのでしょうか。

子どもの頃、八十八夜になるとどこの家でもお茶つみで、手伝いをしたことを思い出します。いまは茶専門農家も数家あります。

180. わが家の子供たち

撮影：昭和32年4月



終戦後の中国山東省から引き上げ帰国、食糧も衣服もない時代から過ぎてきた今を思うと感慨もひとしおです。

引き揚げ後に私の子供（長女・長男）が生まれ、その当時6歳と3歳の時の写真です。尚、広報紙を利用して自分の身内の写真を紹介するなどは市民の皆さんに大変失礼とは存じますが、記述者の冥加としてお見逃し下さい。

181. 巨峰ぶどう栽培の推移

撮影：昭和28年5月



巨峰ぶどうは中伊豆町にある大井上農園で研究育種されたぶどうです。大粒種として知らない人はいないほど有名で、このすぐ近くで作り出されたのに、なぜか県内にはこれといった産地がないのが不思議なくらいです。

裾野では、千福・御宿方面の篤農家10数人が研究栽培を昭和20年代に始め、すばらしい巨峰が収穫されて人気も高かったのですが、立地条件や気象条件により多くの人手を必要としたため、栽培者は激減してしまいました。当時は、見学者も多く評判でした。現在は御宿の磯部農園で栽培されています。

182. 御殿庭のおもいで

撮影：昭和37年8月



この昭和37年当時、裾野としては観光関係の幕があがったころでした。町議会産業経済委員会と、裾野町商工会の合同で富士山麓の観光資源開発を行うこととなり、第一歩として須山登山道の調査をすることになりました。

この写真はそのときの「御殿庭」での記録写真です。現在ではすでに半数以上の皆さんが故人となられたのではないのでしょうか。

「御殿庭」は、スバルラインの御殿、奥庭ひびに比肩して須山の渡辺徳逸先生が命名したと覚えています。たいへんすばらしいところです。

183. 須山登山道

撮影：昭和36年9月



富士山観光資源開発調査の一行です。この折は裾野町議会産業経済委員会でおこなった最初のときの写真で、須山登山道の「幕岩」に至る手前あたりです。都会人に言わせると、このあたりの空気は非常においしいと言います。

あれから35年、その後は訪れていないが、散在する自然植生等も随分変化したと思います。

184. 四ツ溝柿の品評会

撮影：昭和33年10月



今でこそ少なくなりましたが、この地方にはどこの家にも四ツ溝柿の木が植えられていました。シブ柿だが脱渋すると甘味が出て非常においしい柿ですが小果が玉にキズで、農家では大型改良に努力したものです。この成果をあげるため毎年秋に四ツ溝柿品評会を開催したのですが好成績を挙げるまでには至りませんでした。現在お隣りの長泉町ではグループによる産地化により好成績を挙げているそうです。



アシタカツツジ